

設計VEによる事業の価値向上

目的

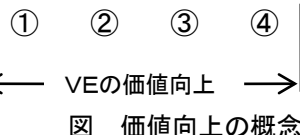
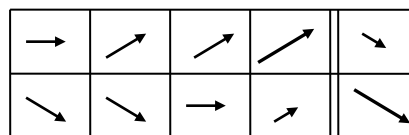
設計VEは社会資本整備の価値（機能・品質とコスト）向上を図るため、平成16年10月に国総研から「設計VEガイドライン（案）」が出され、国交省をはじめ各官庁で実施されています。

設計VEの目的は機能とコストの対比により最適な価値を目指す取り組みであり、特徴として対象物を「機能」（対象物の各部位の働き）に置き換えて、自由な発想で新たな案を導くものです。

（右図参照）

そこで、当社では設計VEに関する運営を支援し、社会資本整備の価値向上を図ります。

$$\uparrow V(\text{価値}) = \frac{F(\text{機能})}{C(\text{コスト})}$$

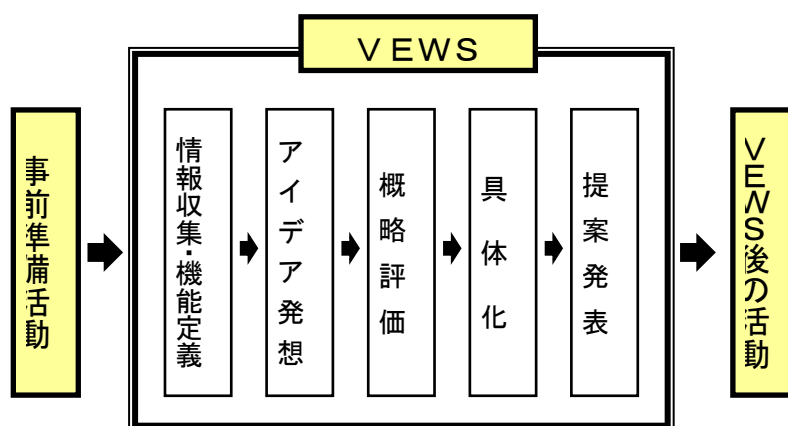


やっではないけい！
安かろう・悪かろう
のグレードダウン

内容

設計VEは、事業内容や事業の段階を選びません。事業として価値があるものであれば、設計VEによる価値向上は期待できます。ただし、計画段階などの制約条件が少ない場合には大幅な価値向上が期待できる場合が多いですが、詳細設計等の段階では制約条件が多く、設計VEによる価値向上が小さくなります。

設計VEはおおむね以下のような流れで、ワークショップ形式で実施します。



設計VEの一般的な流れ

技術ポイント

(1) ワークショップの開催・運営

ワークショップは事業に関係する各分野の専門家が一同に会して『チームデザイン』により実施します。ワークショップのメンバーには、事業担当者として発注者も入ることが多いです。

ワークショップのメンバーにより集中的に議論して、最適な案をとりまとめるため、約2～3週間に1回程度で終日のワークショップを実施します。

ワークショップの運営には、設計VEに対する理解が深く、メンバーの意見を上手に引き出せるチームリーダーが必要です。

当社には、社)日本VE協会認定のVEリーダーが約30名在籍しており、円滑なワークショップの運営ができます。



ワークショップの様子

ワークショップの最終段階では、メンバーから最適案に対して提案発表を行います。

(2) 設計チームの対応

設計VEの実施にあたっては、価値向上の対象とするための当初案の作成や、設計VEでの最適案を具体化した設計へのフィードバックなど、設計VEだけでは対応できない具体化の部分も、VEチームと別に設計チームを配置させることができます。



ワークショップの様子

(3) 設計VEの講習

設計VEの実施と合わせて、関係者の設計VEに対する理解促進のための講習会の開催も可能です。



提案発表の様子

当社の実施範囲

当社は総合コンサルタントとして、まちづくりや環境、構造物など様々な技術者を有しており、多様な観点から新たな価値を創出する設計VEにおいて、多様な分野の専門技術者をVEのメンバーとして加えることができます。

また、発注者側の担当者を入れたワークショップの実施、VEチームと別途の設計チームの対応など、様々な要望に対応できます。お客様からのご相談に基づき、より効果的な手法をご提案させていただきますので、下記の問い合わせ先まで遠慮無くご相談ください。

当社実績

H19 「杭瀬川築堤護岸詳細設計業務」 中部地方整備局木曾川上流河川事務所

H20 「矢作川下流部詳細設計業務」 中部地方整備局豊橋河川事務所

H20 「名田熊砂防堰堤予備設計業務」 中部地方整備局天竜川上流河川事務所

他

玉野総合コンサルタント株式会社

お問い合わせ先： 事業企画部 (TEL. 052-979-3960/FAX. 052-979-3970)